

岐阜工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	総合国語
科目基礎情報						
科目番号	0064		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	書いて伝える・声で伝える 表現ワークブック (明治書院) また、適宜プリントも用意する。					
担当教員	樋口 千紘					
到達目標						
①論理の展開を的確に捉え、要旨を把握できる。 ②論理的に思考し、結論を導くことができる。 ③自身の考えを的確な表現を用いて記述・発表できる。 ④論理的な議論ができる。 ⑤議論にふさわしい表現を用いることができる。 岐阜高専ディプロマポリシー：(C)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理や要旨の理解に関する問題を正確 (8割以上) に解くことができる。		論理や要旨の理解に関する問題をほぼ正確 (6割以上) に解くことができる。		論理や要旨の理解に関する問題を正確に解くことができない。	
評価項目2	論理的に思考し結論を導く課題に関する問題を、正確 (8割以上) に解くことができる。		論理的に思考し結論を導く課題に関する問題を、ほぼ正確 (6割以上) に解くことができる。		論理的に思考し結論を導く課題に関する問題を正確に解くことができない。	
評価項目3	自身の考えを的確な表現を用いて正確 (8割以上) に記述・発表できる。		自身の考えを的確な表現を用いてほぼ正確 (6割以上) に記述・発表できる。		自身の考えを的確な表現を用いて正確に記述・発表することができない。	
評価項目4	適切な表現を用いた論理的な議論が、正確 (8割以上) にできる。		適切な表現を用いた論理的な議論が、ほぼ正確 (6割以上) にできる。		適切な表現を用いた論理的な議論ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	第3学年までの学習成果をふまえ、読解・表現・議論にかかわる国語能力のさらなる育成を目的とする。					
授業の進め方・方法	この授業では、評論文の読解のほか、グループ学習をふまえたディベートなど、能動的な学習が含まれる。積極的に発言・発表し、意見交流を通して、他者と建設的に議論する姿勢を身につけてほしい。課題は必ず提出すること。 (事前準備の学習) 日常的に言語の運用に注意を払う。 英語導入計画：なし					
注意点	授業の内容を確実に身につけるために、予習・復習が必須である。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	評論文の読解 (1) (A LのレベルC)	評論文に使用される語句を調べ、説明することができる。		
		2週	評論文の読解 (2) (A LのレベルB)	評論文の内容を理解し、説明できる。		
		3週	評論文の読解 (3) (A LのレベルB)	評論文の内容を理解し、説明できる。		
		4週	わかりやすい伝え方 (A LのレベルC)	テキスト『表現ワークブック』の問題を解くことができる。		
		5週	客観的批評 (1) (A LのレベルC)	課題文を分析することができる。		
		6週	客観的批評 (2) (A LのレベルC)	課題文を理解し、作文の準備を進める。		
		7週	作文 (A LのレベルB)	作文を作成する。		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	敬語 (A LのレベルC)	敬語を理解する。		
		10週	ディベート導入 (1) (A LのレベルC)	ディベートの方法について理解する。		
		11週	ディベート導入 (2) (A LのレベルB)	ディベートの構想をまとめる。		
		12週	ディベート実施準備 (A LのレベルA)	ディベートの準備を進める。		
		13週	ディベート実施準備 (A LのレベルA)	ディベートの準備を進める。ディベートについてまとめる。		
		14週	ディベートのまとめ (A LのレベルB)	授業でのまとめをふまえて報告書を作成する。		
		15週	期末試験			
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	

				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	

評価割合

	中間試験	期末試験	作文	発表	課題	合計
総合評価割合	100	100	40	40	20	300
得点	100	100	40	40	20	300